

Pichast ~ピチャリ~

七飯町歴史館だより

第221号

ななえ古写真物語

VOL.221

ラッキーボート

絵葉書「国定公園 水郷 大沼」より
昭和30年代か
大沼国定公園



昨年だったと思う。洞爺湖周辺を車で走っていた時に、湖岸に凜と首をのばす大きな鳥の姿を見つけた。スワンボートである。しかも、色とりどりで、黒や黄金色のものまであり、驚いた。私のイメージは、腹（船底）の部分が水色で、羽や頭が白色だったので、時代の変化を感じずにはいられなかった。しかも、今ではエンジン付きまである事を知り、三度驚いた。

実は、ペダルボートや手漕ぎボートの類に乗った記憶はない。というより、遊覧船やフェリー以外の船に乗った記憶が皆無とあって良いだろう。もしかしたら、子どもの頃に大沼で乗ったことがあるのかもしれないが、少なくとも私の記憶装置には、メモリーされていないのだ。特段、水辺が苦手という訳ではないので、自分でも意外だった。

ところで、大沼が公園として知られる様になったのは、明治36年以降だと考えている。実際、この年には、大沼遊覧ボート「軍川丸」が就航したと大沼観光事典「NANAE大沼」に記されているし、明治から昭和初期に発行されたと考えられる大沼の絵葉書には、優雅に水面に浮かぶ手漕ぎボートや帆掛け船が写っているものが多い。そして、それら絵葉書の中で異彩を放っていたのが上の写真「ラッキーボート」である。

ラッキーボート。なんとも愉快的なネーミングである。前述の観光事典にも、ほぼ同じ形状をしたボートの写真が掲載され「水上自転車（ペダルボート）」と解説が添えられていることから、仕組みとしては、自転車を漕ぐ要領で、推進力を生み出すものだろう。乗ったことはないが、スワンボートと変わらない仕組みなのだと想像ができる。

画像が不鮮明で申し訳ないが、上の写真を見ると、確かにサドルとペダル、そしてハンドルが中央に据えられているので、自転車の様にも見える。しかも、サドルは2台ある。体重の個人差が大きいとバランスがとりにくそうだが、定員2名ということだ。

この写真は、大沼観光協会が発行した絵葉書「国定公園 水郷 大沼」に含まれる一枚である。タイトルに国定公園とあることから、昭和33年以降であると思われるが、調べてみても、このラッキーボートについて（もしくは水上自転車）記載されている史料は、ほとんどない。もし、実際に漕いだことのある方がいらしたら、話を伺いたいところである。

かつて、大沼湖上を闊歩していたラッキーボート。一度乗ってみたい気はするが、叶わないだろうから、まずは、スワンボートから挑戦しようか思案中である。

15日 峠下庚申塚の補修

急斜面に立つ史跡「古峠庚申塚」。道の駅なないろ・ななえから、ほど近い場所にあります。今も、お花や供え物がならんでいます。町内には、ここの他にあと4箇所の庚申塚があり、歴史館では、定期的に草刈りや柵の補修等を行っています。時折、史跡や巨木の場所などの問い合わせもあるので、環境を整えるように維持管理を行っています。4月に行ったのは写真の場所で、老朽化が目立つ柵をきれいに整えました。外を歩くのに気候の良い季節です。町内の史跡巡りをしてみませんか？



22日 木彫り熊の貸出し

当館所蔵の木彫り熊が、市立函館博物館のミニ企画で展示されるため、担当学芸員さんが来館し、借用の作業を行いました。年間で見ると、そう多くはない資料の貸出ですが、事前の写真撮影や計測、細かな部分まで見た資料の状態のチェックなど、やや緊張した時間が流れます。布団と呼ばれる、わたを和紙で包んだもので、ていねいに梱包され、無事に貸出は終了しました。



25日 ジュニア探検クラブ開講

今年もはじまりました、ジュニア探検クラブ。全12回のプログラムを、元気な8名の子どもたちと行います。自己紹介では、参加の決め手になったプログラム、ちょっと苦手なプログラムなど、自由な意見が多くでました。それでも参加してくれたみんなが、はじめての体験を重ね、共通の思い出が増えていくこと、そして博物館という場所がより身近なものになるよう、私たちが寄りそっていきたいと思います。



1	月	休館日
2	火	
3	水	
4	木	夜の博物館第1夜
5	金	
6	土	
7	日	
8	月	休館日
9	火	
10	水	
11	木	
12	金	
13	土	
14	日	
15	月	休館日
16	火	
17	水	
18	木	
19	金	
20	土	
21	日	
22	月	休館日
23	火	
24	水	
25	木	
26	金	
27	土	ジュニア探検クラブ
28	日	
29	月	休館日
30	火	

※休館日：1日、8日、15日、22日、29日

畜力 カルチベーター

作物のタネをまいたあとに、表土を砕いて、やわらかくする農機具です。用途は爪を変えることにより、土寄せや除草、株切りをすることができます。



編集後記 ~tawagoto~

身近な博物館としての機能をより高めるためには、日々の業務の蓄積が大切だと思っている。資料の収集・保管には、人の手が介在する。寄贈された資料をそのままの状態、収蔵庫にしまうことはない。細かな調査も必要なこともあるし、クリーニングに多くの時間を費やす場合もある。1日3度の館内巡回も大切な仕事だ。「来てよかった。」の声の裏には、見えない時間が多く流れている。

Pichart ~ピチャリ~

第221号

令和8年(2026年)5月20日発行

七飯町歴史館

〒041-1193 亀田郡七飯町本町6丁目1-3

電話 0138-66-2181 FAX 0138-66-2182

E-mail: rekishikan@town.nanae.hokkaido.jp